

<b>Title</b>	情報倫理の授業における意識調査と課題
<b>Author(s)</b>	竹井, 潔
<b>Citation</b>	聖学院大学論叢, 24(2), 2012. 3 : 91-103
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3676">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3676</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

〈原著論文〉

## 情報倫理の授業における意識調査と課題

竹 井 潔

Survey of Attitudes and Problems in a Class on Information Ethics

Kiyoshi TAKEI

Information and Communications Technology (ICT) has progressed bewilderingly, as it has been equipped fully with an infrastructure with which the Internet can be used anytime and anywhere. In our life in the community of an information society, students should understand the importance of information ethics. In the class of information ethics, students are made to understand the necessity of information ethics, the light of the information society, and part of the shadow. Case studies of personal information, copyright law, and criminal activity on the Internet are also covered in this class. Surveys of attitudes toward information ethics formed by the teaching of information ethics were conducted at the beginning of the class and again at the end of the class. The importance of the need for information ethics in ICT is investigated in this paper with the purpose of understanding the effects of the class on students and pinpointing problems.

---

**Key words;** Information Ethics, Information literacy, copyright, personal information, Cyber-crime

**Key words;** 情報倫理, 情報リテラシー, 著作権, 個人情報, ネット犯罪

### 1. はじめに

聖学院大学では、政治経済学部コミュニティ政策学科において、情報科教職課程の情報関連科目の1つに「情報倫理」が置かれている。

高等学校学習指導要領解説によれば、普通教科「情報」では、情報教育の目標として「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」の3つの観点にまとめられている<sup>(1)</sup>。

最初の「情報活用の実践力」は「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる

能力」<sup>(2)</sup>である。

2つ目の「情報の科学的な理解」は、「情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解」<sup>(3)</sup>と述べられている。

3つ目の「情報社会に参画する態度」は「社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度」<sup>(4)</sup>と説明している。この「情報社会に参画する態度」は情報倫理の中核をなす目標であり、情報化の影の部分も含めて情報社会に参画する態度である。また、情報倫理は、私立大学情報教育協会が「情報社会において、われわれが社会生活を営む上で、他人の権利との衝突を避けるべく、各個人が最低限守るべきルールである。」<sup>(5)</sup>と定義しているように、情報社会に参画していく上で必要な規範である。

情報科教職課程の「情報倫理」では「情報社会に参画する態度」に照準を合わせ、「社会性」や「責任」といった問題に関しても対応できる人材を養成することを目的として授業を展開している。情報倫理の必要性、情報社会の光と影の部分を理解するとともに、個人情報、著作権、ネット犯罪など、ケーススタディも取り入れながら実施している。

情報社会という共同体で生活していく上で、情報倫理の重要性を学生達に理解させる必要がある。情報倫理に関する意識調査は、授業の開始時と終了時に情報倫理に関しての意識の度合いを確認するためにを行った。このことにより、授業の効果を把握することが目的である。

## 2. 情報倫理の必要性和授業における情報倫理意識の変化の把握

情報化社会における、情報の価値が向上し、情報は、無限の世界に広がり続けている。そして情報化社会という共同体における倫理の必要性が浮上してきた。「情報社会に参画する態度」は、「社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度」<sup>(6)</sup>である。

情報倫理の授業は、情報社会における「社会性」や「責任」といった問題に関しても対応できる人材を養成することを目的としている。そして、ICTが進展していく中で、ネットワーク社会の一員として生活し、責任を持って生きていく上で現代社会と情報、情報倫理などの課題を取り扱う。

情報倫理の授業において、授業開始時の学生の情報倫理意識が授業開始後にどのように変化したかを確認するためにアンケート調査を実施した。情報倫理の授業内容は、以下のとおりである。

工業社会から情報社会へ  
 情報とは  
 情報の価値  
 個人情報の価値  
 個人情報とプライバシー  
 個人情報 事例研究  
 個人情報漏えいの原因と対策  
 インターネットの役割と情報格差  
 情報のボーダレス化と OECD8 原則  
 社会における情報の役割  
 情報化による人間生活の変化  
 情報化による光の側面・影の側面  
 著作権について  
 著作権 事例研究  
 ネチケットについて  
 インターネット犯罪  
 インターネットの危険と対策  
 情報倫理の総合演習  
 情報倫理・情報モラルの構築

授業は、上記の内容を講義、演習、ディスカッション等を通して進め、これからの情報倫理・情報モラルのあり方を提案させるものである。授業効果を見るために、授業の事前、事後アンケートを実施したが、情報倫理の意識が授業事前の状態から、授業事後の状態にどのように変化したかを以下に検討する。

### 3. アンケートの実施と結果

情報倫理のアンケートは、同一の内容を授業開始時の 2010 年 9 月と授業終了時の 2011 年 1 月に実施した。対象は情報倫理の授業受講生 15 名である。

アンケートの各項目数は 34 項目<sup>(7)</sup> であり、具体的な内容は以下のとおりである。

アンケートは以下の質問で該当する番号に○、該当しない場合は×をつけて行った。

〈アンケートの質問項目〉

1. パソコンなど情報機器の操作は不自由しない。
2. インターネットは日常的によく閲覧する。
3. パソコンの基本的なワード、エクセルなどの知識があれば十分である。
4. ネットを使用する上でルールやマナーを守ることは大切である。
5. 子供の時からネットを使用するルールやマナーを教育する必要がある。
6. ネット上で加害者、被害者にならないためにもネチケットを知る必要がある。
7. コンピュータの仕組みやネットワークの知識があれば、情報倫理は必要ない。
8. 情報倫理とはどのようなものであるかよくわからず、必要性も感じない。
9. 情報倫理は個人個人が気をつけていればよいもので、特に必要ない。
10. 情報社会の進展により、今後ますます情報倫理の必要性が出てくると思う。
11. インターネットを使用していてコンピュータウイルスにかかったことがある。
12. ネットを使用していて、迷惑メールの被害にあったことがある。
13. ネットオークションの被害や、ネット詐欺にあったことがある。
14. ネット上のアンケートには気軽に答える。
15. 知らないサイトは興味があるので、すぐ閲覧するほうである。
16. 個人情報の記入には十分気をつけている。
17. ネット上で被害にあったら自己責任で仕方ないと思う。
18. 今後、ネット上で被害にあわないためにもコンピュータの知識をもっと知る必要がある。
19. 情報社会ではもっと倫理を理解する必要がある。
20. 自分のことだけで精いっぱい、他人のことの利益は考えられない。
21. 自分がされたくないことは、他人にしてはならない。
22. 情報格差が生じるのは致し方ない。
23. 情報格差をなくすために情報教育をすべきである。
24. ネット上に自分の顔写真を載せたことがある。
25. 掲示板での書き込みに対して頭にくることがある。
26. ネット上に他人の写真を載せたことがある。
27. 普段、著作権について考えて行動していない。
28. ファイル交換ソフトを使って音楽や映画をダウンロードしたことがある。
29. 情報社会で生き残るためには情報リテラシーが必要である。
30. ネットで被害にあうのは自己責任である。
31. 自分の責任の範囲において行動するのであれば、ネット上で自由に行動してもよい。
32. 自分で責任が取れるような行動をするために情報倫理の教育は必要である。

- 33. 携帯電話は小中学生に持たせるべきではない。
- 34. ネット犯罪にまきこまれないためにもネット使用の規制を強化すべきである

今回のアンケート項目は、「コンピュータ・ネット上の行動」、「情報倫理の必要性」、「情報格差」、「個人情報・プライバシー」、「著作権」、「ネット犯罪」、「情報リテラシー」のカテゴリーについて行動や意識を問うものである。(表1)

### 3.1 ネット上の行動

「ネット上の行動」に関する授業開始時と授業終了時の比較を図1に示す。

質問項目の「31. 自分の責任の範囲において行動するのであれば、ネット上で自由に行動してもよい」において授業開始時に66.7%であったが、授業終了後に38.5%と28.2ポイント下がったのが顕著な傾向である。(p < 0.05)

反面、「15. 知らないサイトは興味があるので、すぐ閲覧するほうである」は授業開始時に6.7%

表1 アンケートの質問内容の分類

分類	質問項目
1. ネット上の行動	2, 15, 25, 31
2. 著作権	27, 28
3. 情報格差	22, 23
4. 情報倫理の必要性	7, 8, 9, 10, 19, 20, 21, 32
5. 情報リテラシー	1, 3, 29, 18
6. ネット上のルール・マナー	4, 5, 6, 33, 34
7. ネット犯罪	11, 12, 13, 17, 30
8. 個人情報・プライバシー	14, 16, 24, 26

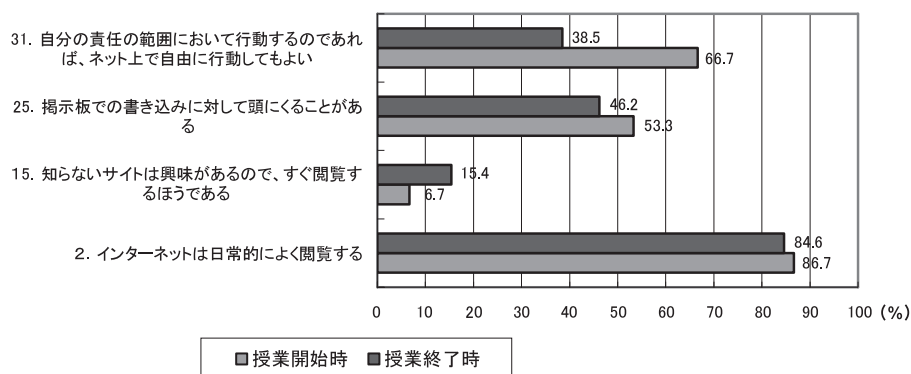


図1 ネット上の行動

であったが、授業終了時には15.4%と8.7ポイント上がっている。

また、「25. 掲示板での書き込みに対して頭にくることがある。」が、授業開始時に53.3%であったが、授業終了時には46.2%と7.1ポイント下がっている。書き込みに対して敏感であることがわかる。

### 3.2 著作権

「著作権」に関する授業開始時と授業終了時の比較を図2に示す。

質問項目の「28. ファイル交換ソフトを使って音楽や映画をダウンロードしたことがある」では、授業開始時33.3%であったが、授業終了時は23.1%となった。また、「27. 普段、著作権について考えて行動していない」に関しては、授業開始時40.0%であったが、授業終了時30.3%となった。

### 3.3 情報格差

「情報格差」に関する授業開始時と授業終了時の比較を図3に示す。

質問項目の「22. 情報格差が生じるのは致し方ない」においては、授業開始時73.3%であったが、授業終了時61.5%であった。

「23. 情報格差をなくすために情報教育をすべきである」においては、授業開始時86.7%であったが、授業終了時92.3%と5.6ポイント上がった。

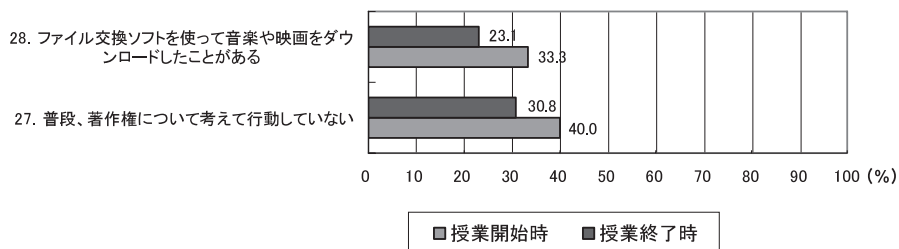


図2 著作権

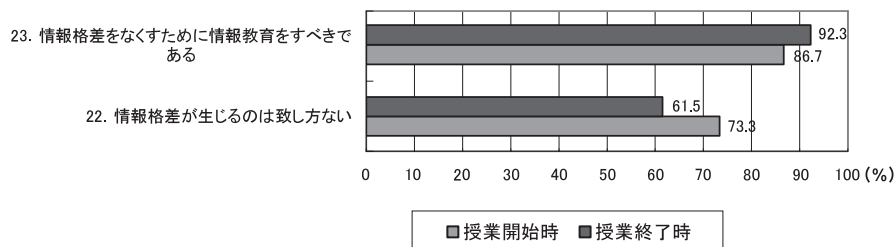


図3 情報格差

### 3.4 情報倫理の必要性

「情報倫理の必要性」に関する授業開始時と授業終了時の比較を図4に示す。

質問項目「20. 自分のことだけで精いっぱい、他人のことの利益は考えられない」において授業開始時 53.3%であったが授業終了時は 30.8%と 22.5 ポイント下がっている。

「8. 情報倫理とはどのようなものであるかよくわからず、必要性も感じない。」「9. 情報倫理は個人個人が気をつけていけばよいもので、特に必要ない」では、ともに授業開始時 33.3%であったが、授業終了時は 0%となった。(p < 0.05)

また、「10. 情報社会の進展により、今後ますます情報倫理の必要性が出てくると思う。」と「32. 自分で責任が取れるような行動をするために情報倫理の教育は必要である。」では、ともに授業開始時 93.3%であったが、授業終了時は 100%となり、情報倫理の必要性に対する意識は高まった。

「19. 情報社会ではもっと倫理を理解する必要がある」では、授業開始時 85.7%であったが、授業終了時は 92.3%となった。

### 3.5 情報リテラシー

「情報リテラシー」に関する授業開始時と授業終了時の比較を図5に示す。

質問項目「3. パソコンの基本的なワード、エクセルなどの知識があれば十分である」において授業開始時 80.0%であったが、授業終了時は 61.5%と 18.5 ポイント下がった。このことは、ワー

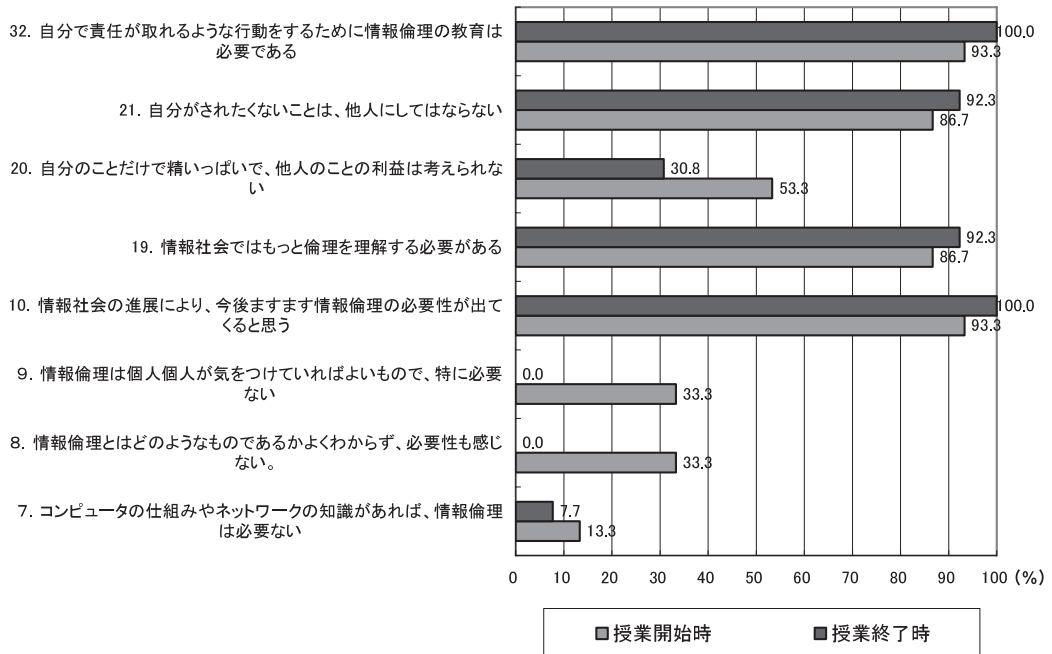


図4 情報倫理の必要性



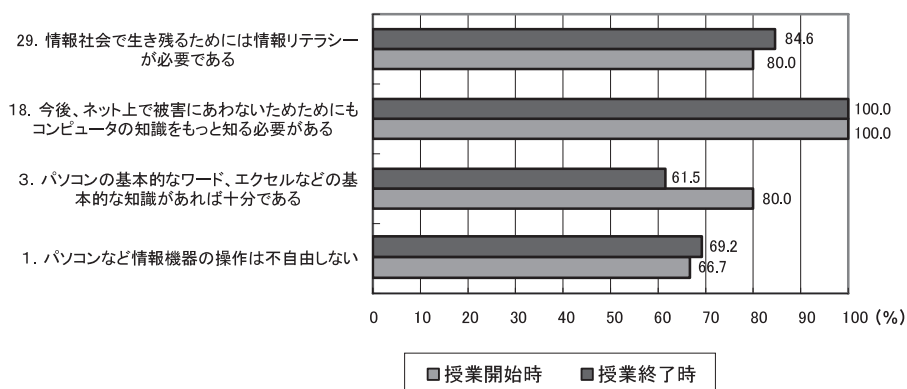


図5 情報リテラシー

ド、エクセルなどの知識だけでは不十分で、さらにパソコンについての知識が必要であるとの認識の現れであるととらえられる。

「1. パソコンなど情報機器の操作は不自由しない」では、授業開始時 66.7%であったが、授業終了時 69.2%と 2.5% 高くなった。

また、「18. 今後、ネット上で被害にあわないためにもコンピュータの知識をもっと知る必要がある」では、授業開始時、授業終了時ともに 100%であった。

情報リテラシーの必要性に関し、「29. 情報社会で生き残るためには情報リテラシーが必要である」では、授業開始時 80.0%であったが、授業終了時は 84.6%となった。

### 3.6 ネット上のルール・マナー

「ネット上のマナー・ルール」に関する授業開始時と授業終了時の比較を図6に示す。

質問項目「4. ネットを使用する上でルールやマナーを守ることは大切である」では、授業開始時 93.3%であったが、授業終了時 100%となった。

「6. ネット上で加害者、被害者にならないためにもネチケットを知る必要がある」は授業開始時、授業終了時ともに 100%であった。

「34. ネット犯罪にまきこまれないためにもネット使用の規制を強化すべきである」では、授業開始時 86.7%であったが、授業終了時 69.2%と 17.5%減少した。

「33. 携帯電話は小中学生に持たせるべきではない」では授業開始時 33.3%であったが、授業終了後 30.8%となった。「5. 子供の時からネットを使用するルールやマナーを教育する必要がある。」では、授業開始時 86.7%から授業終了後 92.3%となった。

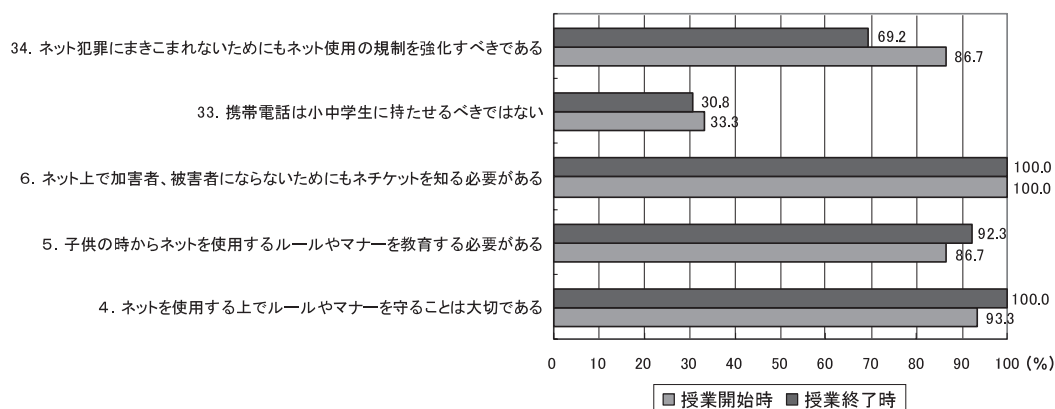


図6 ネット上のルール・マナー

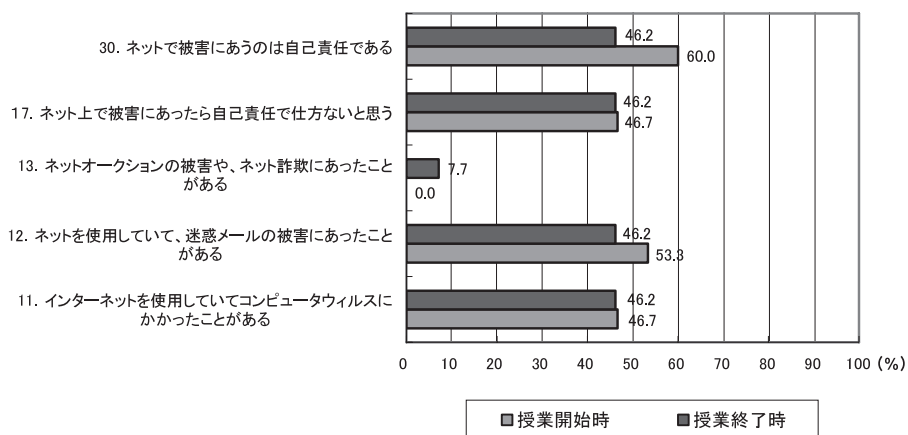


図7 ネット犯罪

### 3.7 ネット犯罪

「ネット犯罪」に関する授業開始時と授業終了時の比較を図7に示す。

質問項目「30. ネットで被害にあうのは自己責任である」など、ネット被害で自己責任を問うものは、授業開始時60.0%であったのが、授業終了時46.2%と13.8ポイント下がった。

「17. ネット上で被害にあったら自己責任で仕方ないと思う」は授業開始時46.7%、授業終了時46.2%とほとんど変わらなかった。

一方、「11. インターネットを使用していてコンピュータウィルスにかかったことがある」が授業開始時46.7%、授業終了時46.2%とほとんど変わらなかった。

「12. ネットを使用していて、迷惑メールの被害にあったことがある」は授業開始時53.3%、授業終了時46.2%となった。

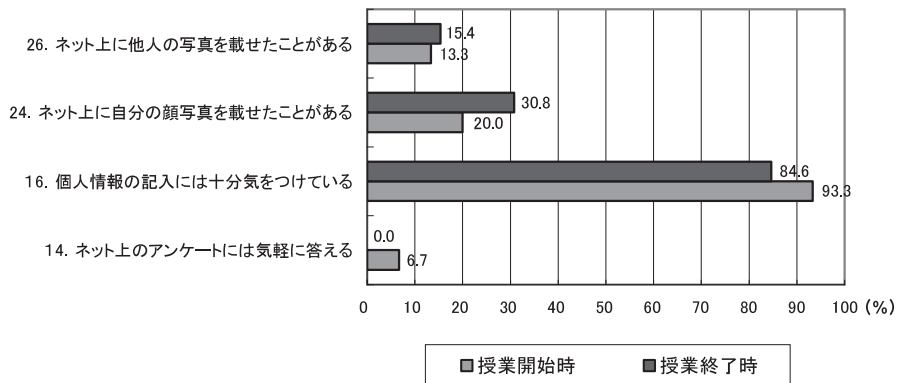


図8 個人情報

### 3.8 個人情報

「個人情報・プライバシー」に関する授業開始時と授業終了時の比較を図8に示す。

「16. 個人情報の記入には十分気をつけている」では、授業開始時93.3%であったが、授業終了時は84.6%となった。

また、「14. ネット上のアンケートには気軽に答える」では、授業開始時6.7%であったが、授業終了時は0%となった。

「24. ネット上に自分の顔写真を載せたことがある」は、授業開始時20.0%であったが、授業終了時は30.8%と10.8ポイント増えた。また、「26. ネット上に他人の写真を載せたことがある」は、授業開始時13.3%であったが、授業終了時15.4%であった。

## 4. 考察

アンケート実施の結果、情報倫理の必要性については、授業開始後と授業終了時では、授業が終わった段階で、すべての学生が情報倫理の必要性を感じており、全員が情報倫理の教育が必要であると答えている。情報社会で生き残るためには情報リテラシーが必要であるとの意見が授業終了時には高まり、パソコンの基本的なワード、エクセルなどの知識があれば十分であるという意見は減少した。このことは、情報リテラシーとして、情報倫理の素養が必要であるとの意見の反映であるとみることができる。

ネット上の行動について、自分の責任の範囲において行動すれば、ネット上で自由に行動してもよいという意見が授業開始後から大幅に減少し、授業終了時にはネット上の行動が非常に慎重になってきた。ネットで被害にあうのは、自己責任であるという意見が減少したが、自己責任の範囲を超えて、ネットの被害にあってしまうことも認識した結果であろう。

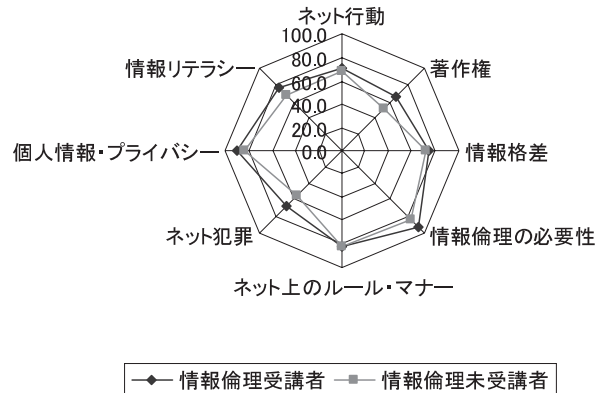


図9 情報倫理受講者と未受講者の比較

個人情報について、ネット上のアンケートには気軽に答えるということが全員なくなり、個人情報の記入について気を付けるようになったといえる。しかし、ネット上に自分の写真を載せたりすることが増えたのは、SNS やブログなどの利用において写真などを掲載していることの結果といえる。

著作権については、授業終了時では著作権を考慮して行動することが増え、ファイル交換ソフトを使った映画や音楽のダウンロードが減少した。

2008 年度に情報倫理に関する意識調査<sup>⑧</sup> (N=52) として、情報倫理の授業履修者と情報倫理以外の授業履修者との比較を行った結果も参考にしたい。

情報倫理受講者と未受講者を各カテゴリーの項目ごとに比較したものが (図9) である。

結果は、情報倫理の授業を受講した学生は受講していない学生に比べて、情報倫理の必要性をさらに感じていることがわかる。また著作権やネット犯罪・ネット被害に関しても情報倫理の授業を受講した学生の意識が高いこともわかる。

情報倫理の授業履修者と情報倫理以外の授業履修者との比較においても、情報倫理の授業を履修しているものは、情報倫理の必要性を意識し、情報倫理の教育が必要性については、授業履修者 95.7、情報倫理以外の授業履修者は 82.8 という結果であった。このことから、授業受講による情報倫理教育に対する意識の違いが出ていると判断できる。

情報倫理の意識は授業開始後と授業終了時で、情報倫理の必要性のカテゴリーやネット上の行動等において違いが出ており、授業により情報倫理意識が向上した。ネット犯罪にあわないように、また責任を持ったネット行動がとれるように、情報倫理意識に対して行動が変容していくことが課題である。

情報倫理は「人間性の倫理ではなく、行為の倫理として位置づけられる」<sup>⑨</sup> と指摘しているように、人間性ではなく情報社会での行為が問題となる。私立大学情報教育協会は、情報倫理が「情報

社会において、われわれが社会生活を営む上で、他人との権利との衝突を避けるべく、各個人が最低限守るべきルール」と定義している。その意味で、情報倫理は情報社会における行為の倫理として、行動規範を遵守していくことが求められている。また、「情報倫理とは、倫理という言葉が連想させる“ルールの墨守”や“束縛”を意味するものではなく、よりよい社会を自由に構想させる力をもたらすものなのである」<sup>(10)</sup>との指摘があるように、情報倫理は情報社会における「自由と責任」という命題がある。よりよい社会を築いていくために、情報倫理の必要性を学生が認識すると同時に、自由と責任のある情報社会での行動を取ることが求められる。

## 5. おわりに

ICTの進展に伴い、いつでも、どこでも、誰でもが情報端末を使ってインターネットを使える環境にある。2000年以降、インターネット利用人口は急速に増加し、2010年末で9462万人<sup>(11)</sup>である。情報通信の基盤整備が充実し、また、パソコンだけでなく、携帯電話やスマートフォン、ゲーム機などによるインターネット接続ができる環境になってきた。WiFiのできるエリアが拡大され、家でのみならず出先においてもモバイル端末でインターネットが使えることなどが、インターネット人口が増え、利用率が向上してきている要因のひとつである。

今までの情報リテラシーとしての基礎的な情報教育は、パソコンの操作面を中心としたものであった。まずはワード、エクセルといった文書作成、表計算ソフトなどを使えるようにすることが大きな目標であった。今回の授業受講者も6割強は情報機器の操作に不自由しないと答えている。情報教育も小学校、中学校、高等学校において実施されてきている現在、大学における教育はそろそろ操作面を中心とした基礎的な教育からは脱却していく時期にさしかかってきている。今後は、社会生活の中でICTの利活用を行っていく場合の影響や課題を理解し、問題解決していくためにも、情報機器の操作や文書作成、表計算ソフトなどの基礎的な教育から個人情報や著作権、ネット犯罪、情報セキュリティなど、情報社会の諸課題を理解する教育へと重点がシフトしていくことが望まれる。

ICTの進展で情報倫理教育は今後ますます必要性を増してくる。しかし、教育現場においては「情報の仕組みや情報機器の活用が中心」<sup>(12)</sup>であると指摘されるように、十分な情報倫理や情報モラルの教育がなされてきているとはいえない。また学校での情報モラル教育の必要性は誰も認めるところであるが、広く行われていないのが実情であるとの指摘もされている<sup>(13)</sup>。

繰り返しになるが、高等学校の普通教科「情報」の教育目標に「社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度」とあるように情報倫理教育のいっそうの普及と充実化が望まれる。

注

- (1) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説』開隆堂 2002 p. 15
- (2) 同上 p. 16
- (3) 同上 p. 17
- (4) 同上 p. 18
- (5) 梅本吉彦編著『情報社会と情報倫理』丸善株式会社 2002 p. 5
- (6) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説』開隆堂 2002 p. 18
- (7) アンケート項目は竹井潔, 石部公男 「学生の情報教育と情報倫理に関する意識調査について」『第3回パーソナルコンピュータ利用技術学会全国大会発表講演論文集』 2008 pp. 221-224 に準ずる。  
 尚, 2010年度の授業開始時におけるアンケート(2010年9月)の結果は, 第5回パーソナルコンピュータ利用技術学会全国大会において, 2008年度~2010年度の「情報倫理」の授業に参加している学生の情報倫理に関する意識の比較検討を発表したときのデータを使用した。(竹井潔「情報倫理の授業参加学生の情報倫理に関する意識調査について」『第5回パーソナルコンピュータ利用技術学会全国大会講演論文集』2010 pp. 113-116)
- (8) 竹井潔, 石部公男「学生の情報教育と情報倫理に関する意識調査について」『第3回パーソナルコンピュータ利用技術学会全国大会発表講演論文集』 2008 pp. 221-224
- (9) 越智貢, 土屋俊, 水谷雅彦編『情報倫理学』ナカニシ出版 2000 p. 197
- (10) 村田潔『情報倫理』有斐閣 2004 p. 17
- (11) 総務省『平成23年度版 情報通信白書』ぎょうせい 2011 p. 186
- (12) 加納寛子『情報モラル教育 ユビキタス社会へのアプローチ』北大路書房 2005 pp. 12-13
- (13) 越智貢編『情報倫理入門』ナカニシ出版 2004 p. 206